

1 「霊山」英彦山

英彦山は北岳(1192M)・中岳(1188M)・南岳(1199.6M)の三つの山頂を持ち、福岡県内では釈迦岳(1231M)に次ぐ標高を誇る。山域は福岡県と大分県の県境未確定地域となっている。山の中腹 500m 近辺に英彦山神宮奉幣殿があり、多くの参拝客が訪れる。山頂には上宮がある。2005年(平成17年)10月には、英彦山神宮へ続く参道沿いに、参道起点の銅の鳥居横から英彦山花公園を經由して参道終点の英彦山神宮奉幣殿へ至る全長 849m のスロープカーが完成し、英彦山神宮奉幣殿まで約 15分で行けるようになった。



英彦山は羽黒山(山形県)・熊野大峰山(奈良県)とともに「日本三大修験山」に数えられ、山伏の坊舎跡など往時をしのぶ史跡が残る。英彦山の開山は、継体天皇の25年(531年)北魏の僧善正上人の入山に始まる。さらに日田藤山村の恒雄が善正に師事して忍辱上人と称し、彦山霊仙寺の基となる草庵を開いたと伝えられている。この霊仙寺は明治の神仏分離までは、天台修験の別格本山として栄えていたが、以降旧境内地が英彦山神社となった。現在、霊仙寺の法灯を受け継ぎ、新たに霊泉寺として復興して、銅鳥居のすぐ右側にある。神話では天照大神の子が来臨して鎮座したので「日子山」となったといわれている。平安時代の弘仁10年(819年)、法蓮上人が嵯峨天皇の勅令で上洛し、日子山を「彦山」に改め、七里四方に及ぶ寺領を賜る勅願寺になる。

その後、鎌倉時代までに49の窟が整備され(「彦山流記」1213年)、山伏の修業が盛んになる。室町時代になると英彦山は、神事色が強まり、峰入りという修験道独特の修業が始まるようになった。英彦山より、宝満山、福智山に出て、得度を積む修業が始まった。戦国時代になると、各大名は血族を彦山座主に据えようと争いがおこり、特に豊後の大友宗麟との確執が大きく、多くの堂宇が焼き払われてしまった。その後、豊臣秀吉の九州平定の折に、七里四方の神領すべてを没収されてしまった。

江戸時代に入ると、小倉藩主細川忠興や佐賀藩主鍋島勝茂らの各地大名から多大な庇護を受けた。参道にある銅鳥居は寛永14年(1637年)にその鍋島勝茂によって建立された青銅製の鳥居である。鳥居正面の「英彦山」の扁額は享保14年(1729年)に霊元法皇によって下賜されたものであり、このときに「英」の字をつけた「英彦山」と称されるようになった。

江戸時代に入ると、小倉藩主細川忠興や佐賀藩主鍋島勝茂らの各地大名から多大な庇護を受けた。参道にある銅鳥居は寛永14年(1637年)にその鍋島勝茂によって建立された青銅製の鳥居である。鳥居正面の「英彦山」の扁額は享保14年(1729年)に霊元法皇によって下賜されたものであり、このときに「英」の字をつけた「英彦山」と称されるようになった。

江戸時代に入ると、小倉藩主細川忠興や佐賀藩主鍋島勝茂らの各地大名から多大な庇護を受けた。参道にある銅鳥居は寛永14年(1637年)にその鍋島勝茂によって建立された青銅製の鳥居である。鳥居正面の「英彦山」の扁額は享保14年(1729年)に霊元法皇によって下賜されたものであり、このときに「英」の字をつけた「英彦山」と称されるようになった。

2 大会コースのルートガイド 太字下線は主要地点

1 日目：英彦山青年の家から北岳（チーム行動）

英彦山青年の家から九州自然歩道に入り左へ進む。国道 500 号線に「63 カーブ」のところで出たら、その車道を右へと進む。車道の脇にはシカが嫌うナガバヤブマオやマツカゼソウが年々増えている。ほどなく豊前坊につき、右斜め上へと石畳の参道があるので、それを登ると高住神社につく。社殿脇より登山道が続いているので、それを進んでいく。途中砂防



高住神社の参道を上がる

ダムを乗り越え、さらに進むと凝灰角礫岩でできた岩石群があり、400 万年前の火山活動の跡がうかがえる。またこの辺りには、ヒノキ、ツクシヤクナゲ、ゲンカイツツジ、イワタバコ、イワギボウシなどが生育している。さらに進むと分岐があり、これを左へ行くと断崖絶壁で景色のいい望雲台へ行けるが、今回は右へと進もう。この辺りから上は立派なシオジの林になっている。林床にはミヤマクマワラビを伴い、高木層にはシオジの他にサワグルミ、ミズメなど、低木層にはヒコサンヒメシヤラ、ヒナウチワカエデなどが生育している。登りとしては、ちょっとトラバース気味に緩やかな部分もあるが、大部分は直登で急な登りが続く。急ではあるが、ほとんどが石段で足場はしっかりしている。ただし、時折浮石があるうえに、雨などで濡れているときは滑りやすいので気を付けてもらいたい。また、「救世安民」と刻まれた石碑を過ぎ、溶岩の壁を過ぎたあたりからは少し足場が悪くなり、このあたりは特に落石させないよう十分に気を付けよう。木でできた階段が現れ、これを登りきるといわゆる一本杉と呼ばれている鞍部に出る。登ってきた階段を振り返ると、左下には歩き始めた英彦山青年の家も見える。この鞍部を右へと進むと、岩場を登るところに出くわす。ロープと梯子の 2 本の道がつけてあるが、いずれにせよ滑落には気を付けてもらいたい。岩場の上には橋がかけてあり、歩きやすくなっているが、またすぐに木の根をつかんで登るようなところも出てくる。後続が追い付いてきたら安全なところで譲り合ってもらいたい。この辺りの植生はブナやオオカメノキ、ツゲが特に目立っている。緩やかな尾根に上がってくるとまもなく北岳に着く。ここまで規定時間が設定してあるので、チェックを受けよう。ピーク周辺は神仏習合時代からの聖域となっており、足を踏み入れることはできないので気を付けて休憩してもらいたい。休憩したらあとは来た道に戻るのみで、一本杉、高住神社を経て英彦山青年の家に戻ろう。ただし、まだ登っているチームがある場合はそちらを優先させてもらいたい。

表参道コース（2日目：雲母坂^{きらら}まで隊行動，そこから産霊神社^{むすび}までチーム行動，そこからゴールまではパーティ行動）

英彦山青年の家前の九州自然歩道に入り，前日とは逆の右へ進む。鷹巣原駐車場少し先までは九州自然歩道の通りである。ただし，国道500号線を2回横切ることになるので，車には十分気を付けてもらいたい。まずは，英彦山野営場の中を通過してちょっとしたショートカットの山道を抜けると1回目の横断。ここは国道をやや斜めに横断する格好になる。次に，沢沿いの道を下っていく。左に曲がって橋を渡り，この辺りはヤブツバキやヒトリシズカ、マムシグサが見られる。石垣の横などをたどって2回目の横断をすると，そこは鷹巣原駐車場である。



英彦山修験道館先の分岐

駐車場の横の道を少し下ると九州自然歩道は左へ曲がり，突き当たりまで進む。ここまでが九州自然歩道で，これに別れを告げ左へと進路を取る。林道を横切り，その林道終点に出たところに英彦山修験道館がある。石畳の道を進んでいくと，分岐があり右下へと進む。この辺りにはスギの他にミツマタ，ミツバツツジ、シロダモ、ツクシシャクナゲなどが見られる。奉幣殿のすぐ下で参道に出ると，右に曲がり下っていく。この辺りも杉木立の林の中であるが，イロハモミジなどもあり新緑が美しい。しばらく下り，旧亀石坊庭園分岐で左へと曲がる。



旧亀石坊庭園分岐

スロープカーの参道駅のところまでくぐると，九州大学彦山生物学実験施設の入り口がある。

そのすぐ右わきから山道に入る。山道入り口にユズリハがある。すぐに渡渉するところが2か所出てくるので気を付けて渡ろう。特に2つ目の渡渉点の橋は腐朽しているので橋は使用せず渡渉しよう。トラバース気味に奇岩の脇などを緩やかに登っていくと，上仏来山分岐につく。この辺りにはスギの他，アカマツ、サンショウも見られる。

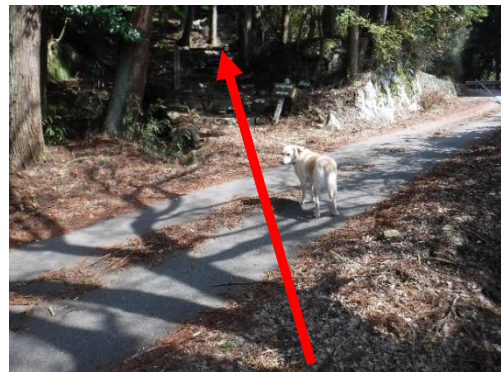
これよりスギ林の中を下っていく。林床にはモミジガサ，アオキなどが自生している。尾根から谷へとトラバースして下り，さらに下ると三叉路に出る。右は銅鳥居方面、左が福太郎と書かれているので，これを左に進むとすぐに渡渉点がある。渡った先も三叉路で，これを右に曲がり川沿いに進んでいく。コンクリートの道が現れ，福太郎の工場が見えてくる。道の脇にムラサキの花が咲いた木があるが，この木がキリである。山肌にもムラサキの花が点在している。遠目では区別が付きづらいツルになっているのがフジである。汐井川駐車場のところになるので，ここで右に曲がり，しゃくなげ荘跡の脇を通り，国道500号線をかすめ，左に下っていく林道へと進む。再び国道500号線に出たところで，これを渡るので，車に気を付けてもらいたい。ここから九州自然歩道に入り，この雲母坂入口^{きらら}からチーム行動となる。

雲母坂を上りきって出会う林道は左へと進む。この辺りの植生はスギとヒノキが混在し道の脇にはサルトリイバラやシャガが点在している。林道をしばらく行くと、九州自然歩道は里道に入るので、案内標識通りに進んでいこう。唐ヶ谷^{がら}の集落を抜け、小川に架かった石橋を渡り、旧国道 500 号線を横切り、さらに登っていくと国道 500 号線が出る。チーム行動中ではあるが、車に十分気を付けて横断してもらいたい。そのすぐ上に銅鳥居^{かねのとりい}がある。



林道から里道に入る（唐ヶ谷）

ここからも石段の登りは続く。まっすぐな参道の両脇には坊の跡が散見されるがその中に、営業中の売店が両脇に向かい合っているため人の出入りには注意しよう。再び坊の跡を眺めながら登っていくと、奉幣殿^{ほうへいだん}にたどり着く。植生はヒコサンヒメシヤラや山伏が持ち帰ったといわれるクリンソウそして春先にはツクシシクナゲが咲いている。ここで、地点確認用の地図と記録書を提出し、



旧国道 500 号線を横切る

さらに登っていこう。奉幣殿からは傾斜が急になり、すぐに下津宮が現れる。さらに登っていくと中津宮の鳥居が木立越しに左上に見え、バードライン分岐に着く。肥前の国の鍋島清久が幼少のころ英彦山上宮参拝の帰りに落ちたが奇跡的に助かったという稚児落とし、英彦山参拝の信者が通行料を納めた関銭の跡を経て、チーム行動ゴールの産霊神社^{むすび}に到着する。

産霊神社からはパーティ行動になるので、監督の先生と春の山を楽しみながら歩こう。奉幣殿からは鷹巣原駐車場まで下らず、三日月池横の林道を通して英彦山青年の家まで戻ってきても構わない。ただし、バードラインが一番の近道であるが、現在、通行止めになっている。

3 荒天対策

5月20日に起こった場合

	地震（震度5弱以上）	台風・気象警報以上	大雨注意報 雷注意報発表時
5月20日	大会中止 早期帰還準備	宿泊所待機 行動中止	通常行動
5月21日	帰宅完了	通常行動	通常行動

5月21日に起こった場合

	地震（震度5弱以上）	台風・気象警報以上	大雨注意報 雷注意報発表時
5月21日	大会中止 早期帰還準備	行動中止 早期帰還準備	通常行動

4 その他

実施要項に加え、「一本杉」と「旧亀石坊庭園分岐」も主要地点とする。



英彦山神宮 奉幣殿